

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

HARMONIELEHRE

混沌が生み出す 現代のハーモニーとは。

衝撃のリフレイン。下野が振るアダムズの大曲。
29年ぶり、ハルモニーレーレが日本で響く！

指揮 **下野 竜也** (首席客演指揮者)
Conductor: TATSUYA SHIMONO

ヴァイオラ **鈴木 康浩** (読響ソロ・ヴァイオラ) コンサートマスター 小森谷 巧
Viola: YASUHIRO SUZUKI (YNSO Solo Viola) / Concertmaster: TAKUMI KOMORIYA

ベートーヴェン: 序曲「コリオラン」 作品62
BEETHOVEN: "Coriolan" Overture Op. 62

ヒンデミット: 白鳥を焼く男 (ヴァイオラと管弦楽)
HINDEMITH: Der Schwanendreher for viola and orchestra

ジョン・アダムズ: ハルモニーレーレ (和声学)
JOHN ADAMS: Harmonielehre

★ 読売日本交響楽団 第552回 定期演奏会 2015 **10/13** (火) 19時開演 **サントリーホール**

The 552nd Subscription Concert / Tuesday, 13th October 19:00 / Suntory Hall

S ¥7,200 A ¥6,100 B ¥5,100 C ¥3,600

読響チケットセンター **0570-00-4390** (10時-18時・年中無休)

プレイガイド: チケットぴあ、サントリーホールチケットセンター <http://yomikyo.or.jp>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業) 協力: アブラック(アメリカンファミリー生命保険会社)

人類の歴史が、 音楽を積み上げる。

小沼純一(音楽・文芸批評家／早稲田大学教授)

Conductor
TATSUYA SHIMONO

下野竜也(読響首席客演指揮者)

鋭い感性と熱いハートで活力に満ちた音楽をつくる俊英指揮者。2006年から6年余り、読響・正指揮者として、意欲的なプログラムを次々に披露。ドヴォルザークやヒンデミット、邦人作曲家の作品を積極的に取り上げ、話題となった。2011年には、アダムズの〈ドクター・アトミック・シンフォニー〉を日本初演し、「第24回ミュージック・ベンクラブ音楽賞」を受賞した。2013年4月からは読響・首席客演指揮者を務め、充実した音楽活動で好評を博している。

1969年鹿児島生まれ。大阪フィルの指揮研究員時代には、朝比奈隆氏らの薫陶を受けた。ウィーン国立演劇音楽大学に留学中、東京国際音楽コンクールとプザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以降、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、ローマ・サンタチェチーリア管、ミラノ・ヴェルディ響、ウィーン室内管、南西ドイツ・フィルなどと共演し、国際的な活躍を展開している。現在、広島ウィンドオーケストラ音楽監督、京響常任客演指揮者、上野学園大学教授。

ベートーヴェンの二管編成、フォルテッシモ(ff)から、アダムズの四管編成、フォルテッシッシモ(fff)へ。

19世紀のはじめから20世紀の後半へとオーケストラの編成が、音量・音圧が、色彩が拡大してゆく。

語法は変化し、多様化してゆけど、調性という骨格は生きている。

そのさまがこのプログラムをかたちづけている。あいだにはヒンデミット、上声の、下声のあいだで普段はかならずしも表には出てこないヴィオラがソロをとる。

ベートーヴェン／アダムズの近代・現代のさらに古層にある中世からの民謡を、ヴァイオリン、ヴィオラを欠いたオーケストラを背景に。

ステージの上、オーケストラのメンバーが入れ替わる。

ごくあたりまえの光景だ。でも、ベートーヴェンからヒンデミットへ、そしてアダムズへと編成がかわり、つぎにはずっと拡大するさまをわざと意識してみたらどうだろう。そのあいだに、産業革命があり、鉄道がはしり、世紀が変わり、大戦があり、と。

フランス革命があり、ナポレオンが登場。皇帝になって、ベートーヴェンは激怒する。〈コリオラン序曲〉は少し後。

ほぼ130年経って、ヒンデミットが〈白鳥を焼く男〉を書くのはヒトラーが総統になった翌1935年。

アダムズの〈ハルモニレーレ(和声学)〉は、1985年、第二次世界大戦も、ベトナム戦争も終わってはいるが、アフガニスタン紛争の真っ最中。世のなかは移り変わっている。オーケストラの響きも変わる。でも音楽の骨格には、調性を持つ力が生きている。時代のなか、さまざまな前衛的・実験的な音楽があり、つくられつつけてゆく。

何年前か前、知人の指揮者に尋ねたことがある。

いま、何が指揮したいか、と。

そのひとは、ジョン・アダムズ、と即答したものだ。可能ならば、と。アダムズのオーケストラ作品は、ハリウッド映画で存分に響くオーケストラと同質な、それでいてより精妙な要素を持ちあわせている。

〈ハルモニレーレ〉は、作曲された翌1986年、開館してほぼ1か月後のサントリーホールで、日本初演がおこなわれた。しかし、以来、オーケストラが存分に“鳴る”この作品は列島で演奏されたことがない。発表から30年を経て、すでに前世紀の音楽となったアダムズ作品のサウンドを、ベートーヴェンとヒンデミットというドイツ音楽の系譜とともに、アメリカ合衆国へと移動したクラシック音楽のひとつの線として、下野竜也の力のこもったタクトで、全身に浴びたい、浴びる、のだ。

Viola
YASUHIRO SUZUKI

鈴木康浩(読響ソロ・ヴィオラ)

読響が世界に誇るヴィオラ奏者。5歳からヴァイオリンを始め、桐朋学園大学卒業後、ヴィオラに転向。第9回クラシックコンクール全国大会ヴィオラ部門最高位、第12回宝塚バグ音楽コンクール弦楽部門第1位ほか受賞多数。2001年からベルリンのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、その後ベルリン・フィルの契約団員として活躍した。2004年に帰国し、2006年から読響ソロ・ヴィオラ奏者を務める。ソロや室内楽でも活発に活動を展開している。深く温かな音色と豊かな音楽性で聴衆を魅了しており、近年では、読響・常任指揮者カンブルランの指揮で、ブリテンの〈ラクリメ〉(2013年9月)、ベルリオーズの〈イタリアのハロルド〉(2014年1月)で独奏を務め、絶賛を博した。

★ 読売日本交響楽団 第552回 定期演奏会

2015年 10月13日(火) 19時開演

サントリーホール

S ¥7,200 / A ¥6,100 / B ¥5,100 / C ¥3,600

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017